学習内容報告書 フォーマット

学校名	唐津市立佐志小学校
授業者	田川雄基、常盤由佳

1. 単元計画

1-1. 単元名

佐志大好き！～佐志の海～

1-2. 学年

３年

1-3. 教科（単元を実施する教科を全てお書きください）

総合的な学習の時間、社会科

1-4. 単元の概要

児童にとって初めての総合的な学習の時間である。オリエンテーションの時間では、まず、生活科での学びからつなげて、児童がふるさと佐志について知っていること、興味があることを出し合う中で、「佐志の海と祭りについてもっと詳しく調べてみたい」という思いが高まった。そこで、社会科の１学期単元「学校のまわり」において町探検を実施する際に、校区内にある水産加工会社「玄海漬」商店の存在に気付かせ、総合的な学習の時間における海洋教育との関連付けを図った。このように、今年度のテーマを「佐志大好き」とし児童と共に調べていく事柄を、１学期は「佐志の海」（２～３学期は「佐志の祭り」）とし、身近な人に発信する計画を立てた。

「佐志の海」では、町探検で気になった「玄海漬」商店と工場を見学することで、佐志は昔から漁業が盛んだったこと、くじらも捕れたこと、そうした豊かな海の幸を生かした産業も盛んになったことを知った。また、調べ学習や水産加工会社に見学に行く活動も仕組むことで、地域の海に関わる仕事に触れると共に、工場の仕事（社会科２学期単元）にも関連付けることができた。

1-5. 単元設定の理由・ねらい

児童が、自分自身が生活する身近な地域のもの・こと・人とのつながりを実感したり、地域を誇りに思い大切にしようとする心情を持ったりすることが、社会と主体的に関わり、創造していこうとする意識の基盤となると考える。そこで、海と深く関わってきた佐志校区の、地域素材・人材を積極的に活用した、総合的な学習の時間と社会科の教科横断的なカリキュラム・マネジメントと授業実践を行えば、児童が地域を誇りに思い、大切にしようとする意識を高めることができるであろう。

1-6. 育みたい資質や能力、態度

(1) 身近な海について調べたい事柄を見つけたり、追究したい課題を設定したりする力。【知識・技能】
(2) 調べ学習を通して得た情報から、身近な海やそれに関わる人々の生き方などに魅力を感じたり、それを他者へ伝える方法を考えたりする力。【思考力・判断力・表現力】
(3) 身近な海に関心を持ち、進んで学習に取り組み、積極的に発信しようとする力。【向かう力】

1-7.　単元の展開（総合/２２時間＋社会/４時間）

時数	学習活動・主な内容	※教師の指導 / 主な評価 ☆外部連携 / 使用教材等
2	**「佐志大好き！」の学習計画を立てよう。**	※２年生活科の学びを、学習成果物を掲示して想起させながら、学習することがらを「佐志の海」と「佐志の祭り」の２つにしぼらせる。
社 2	**社会科「学校のまわり～町探検に出かけよう～」**	※町探検の中で、「佐志の海」に関わることがらに、意図的にふれておく。 ・唐房漁港　・漁村センター　・防波堤　・玄海漬
4 ＋ 社 2	**佐志校区の海を生かした仕事について調べよう。** **社会科「工場の仕事～玄海漬の工場見学に出かけよう～」** ＜見学時の学習＞ ・工場見学　・社長さんからの説明 ・酒粕漬パック詰め体験　・社長さんへの質問 ＜見学後の学習＞ ・さらに知りたいことを質問（社長さんへ手紙） ・社長さんの返事を受けての学習とふり返り	※町探検の写真を見ながら「佐志の海」に関わることがらをふり返り、最も興味をひかれた場所「玄海漬」の商店の見学や工場での体験学習への意欲を高める。 ☆玄海漬社長　髙田庄一朗さん ※昔は佐志の海でもくじらが捕れていたこと、玄海漬はくじらの軟骨を使っていることを押さえる。 ※酒粕漬パック詰め体験を通して、工場で働く人の技や知恵、安全への配慮などにも気づかせる。 ※ふり返りの時間を大事にして、もっと知りたくなった「くじら」について調べたい意欲を高める。
4	**くじらについて調べよう。** ＜出前教室＞ ・くじらの種類と大きさ、特徴などの学習 ・くじらのように音を骨で聴く体験 ・講師の所員さんへの質問 ・くじらの肉を食べる体験（缶詰） ＜体験後の学習＞ ・分かったこと、思ったこと、さらに知りたいことを、ワークシートにまとめる。 ・さらに知りたいことを、学校図書館で調べる。	☆「くじら出前教室」（財）日本鯨類研究所所員 ※くじらの等身大のシートに乗ったり、ひげや骨などの実物を触らせたりして大きさを実感させる。 ※鯨肉が苦手な児童は、無理に食べさせない。 ※くじらの大きさとそれに立ち向かっていった昔の佐志の漁師のすごさを感じさせる。そして、昔の佐志の海で生きた人々のくらしについて、調べたい意欲を高める。
4	**昔の佐志の海と人々のくらしについて調べよう。** ＜ＧＴの講話＞ ・佐志の海でとれる魚クイズ ・今の漁法と昔の漁法 ・イカ漁　・イワシ漁　・クジラ漁 ・ＧＴへの質問 ＜事後の学習＞ ・分かったこと、思ったこと、さらに知りたいこ	☆ＧＴ　校長先生 ※魚クイズで、佐志の海はたくさんの魚が獲れる豊かな海であることを感じ取らせる。 ※資料「肥前州産物図考」などから、昔も今もたくさんの人々が知恵を出し、力を合わせて漁業を行ってきたことを伝える。 ☆ＪＦ佐賀玄海職員、唐房駐在員 ※昔の佐志の漁業や港の様子について話のできる家

	とを、ワークシートにまとめる。 ・さらに知りたいことで、家の人等に聞いて分かったことを伝え合う。	族などがいない児童については、漁村センター内のＪＦ佐賀玄海職員や唐房駐在員さんを訪ねるように日時を設定しておく。
8	**学んだことをまとめて、発信しよう。** ・これまで調べてきたことの中から、自分が最も伝えたいことを選び、グループを編成する。 ・だれに伝えたいかを考え、相手に合ったまとめ方（伝え方）を話し合って決める。 ・自分たちが決めた方法でまとめていく。さらに調べたいことがあるときは、資料等を用いて調べ直す。 ・できた作品を校内に掲示したり、家庭に発信したりする。	※伝えたいことを決めるときには、その根拠を明確にさせるために、自分の驚きや感動を振り返らせる。 ※様々な表現方法があることに、他教科の学習や他学年の取組を通して気付かせる。 ※発信した相手からの感想等を得ることができるようにすることで、児童が達成感を味わったり、さらなる学習意欲を持ったりすることができるようにする。

2.　学習活動の実際

2-1.　単元における位置づけ

単元　２２　時間中の　１６　時間目

2-2.　本時の目標

これまでの調べ活動で得た情報の中から他者へ発信したい情報を選択し、相手に応じた伝え方を考えることができる。

2-3.　本時の展開　　※学習形態　PW:パーソナルワーク、GW:グループワーク、CW:クラスワーク

主な学習活動 / 反応	形態	教師の指導・支援 / 評価の視点（方法）
1　これまでの調べ学習で分かったことや自分の考えを振り返る。 2　本時のめあてを立てる。	CW	○　調べ活動の様子を視覚資料で提示したり、児童のふり返りを引用したりすることで、学習したことだけでなく、感じたことや気付いたこと等も想起できるようにする。 ○　国語科の学習で下級生に紹介文を書いた成果を振り返らせ、佐志の海について学んだことを他者へ伝えたいという意欲を持たせる。
めあて　　調べて分かったことを「だれに・どうやって」伝えるか 考えよう。		
3　これまでの調べ学習で分かったことの中から、他者へ伝えたいことがらを選択する。 4　同じことがらを選択した友達とグループを組み、誰にどのような方法で伝えるかを考える。	PW GW	○　玄海漬のこと、昔の佐志の海のこと、くじらのことの中から他者へ伝えたいことがらを選択させ、自分が感じた魅力等を、選択の根拠として記述させる。 ことがらの選択については、事前に簡易的な調査を実施しておくことで意識づけを図る。 ○　ことがらを伝えたい相手に対して、相応しい伝え方を考えさせる。児童集会や学習発表会等の表現の場を例示し、具体的に考えることができるようにする。 【思考力・判断力・表現力】 B　調べたことがらを伝えたい相手を考え、相手に応じた表現方法を記述している。（ワークシート） ●　伝えたい相手にどのような場で伝えることができるか、考えるよう促す。
5　本時の活動を振り返る。	PW	○　「ふり返りのポイント」を提示し、本時のふり返りを記述させる。 ＜ふり返りのポイント＞ ・今日の学習で考えることができたこと。 ・友達のよかったところ、なるほどと思った考え。 ・次の時間に取り組みたいこと。

6　次時への見通しを持つ。	CW	○ 数名の児童にふり返りを紹介させ、本時の活動を称賛し、次時の活動への意欲を喚起させる。

3.　今回の活動の自己評価

・児童の地域に対する視野が広がり、愛着が高まった。
・事象だけでなく、それに関わる人々の営みにも目を向けつつある。
・「もっと知りたい」「もう一回くわしく調べ直してみよう」等、児童の主体的に学び続けようとする姿も見られた。

4.　今後の課題

・１，２年生活科や３年ＰＴＡ親子活動などの時間を活用して、「海で楽しむ」「海と親しむ」体験活動を行うことで、３，５年総合的な学習の時間で学ぶ際の関心・意欲をさらに高めたい。
・「昔の佐志の海と人々のくらしについて調べよう」のゲストティーチャーとして相応しい地域人材の依頼が間に合わず、今年度は校区の歴史に詳しい校長先生に代役をお願いしたが、ふるさとの「もの・こと・人」から学ぶということに意味があることから、来年度は、堀川義英さん（『佐志の歴史』編集委員会会長）にお願いしたいと考えている。
・今年度は「くじら教室」に当たったので、学校でくじら体験学習ができた。毎年応募したいが、当たらなかった場合のために、呼子町「中尾家住宅」見学、及び、名護屋城博物館学芸員さんの講話を行うことを予定しておく。

5.　本学習内容報告書活用にあたっての留意点

・特になし

※実施した単元ごとに作成してください。
※写真、画像、図表等の使用可。必要に応じて記入欄やページ数を増やしても構いません。
※基本レイアウト
　フォント：MS 明朝、10.5 ポイント / マージン：上下端 20mm、左右端 16mm
※ファイル名は「学習内容報告書_学校名」とし、複数提出する場合は学校名の後に数字を記載してください。
　例：学習内容報告書_海洋市立パイオニア小学校 1
※年間指導計画（年間の指導計画における単元の位置づけが分かる資料）があれば別添資料として提出してください。フォーマットの指定はありません。